

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

1、概要

報告日	西暦 2022 年 4 月 30 日
報告者	江見和明
助成団体名 (所属団体名)	滋賀短期大学ビジネスコミュニケーション学科
団体住所	〒 520-0803 滋賀 <small>都道府県</small> 大津市竜が丘 2 4 - 4
団体電話番号	077 — 524 — 3605
代表者 (助成対象者)	江見和明
助成対象事業	地域トラベルサポーター育成事業
事業（助成）期間	2021 年 4 月 1 日 ~ 2022 年 3 月 日
事業費総額	437478 円
助成金総額	400000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承を頂く**ようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

2、事業内容

1. 本事業の目的

本事業の目的は、地域トラベルサポーターの育成である。トラベルサポーター制度は、1998年に当時近畿日本ツーリスト株式会社、クラブツーリズム事業本部に勤務していた、今回の事業の協力者でもある伴流高志氏がはじめたものである。同制度は、同社の会員顧客で介護資格を持つ人にサポーターになってもらい、介助を必要とする旅行者のサポートをするというサービスである。これは大変画期的なサービスであるが、すべての行程にトラベルサポーターが付くと、交通費や宿泊費など、利用者の経済的な負担が大きいうという面があった。そこで伴流氏が考えたのが、地域トラベルサポーターである。地域トラベルサポーターとは、介護経験と知識を持った有資格者（介護福祉士、介護職員初任者研修修了者、看護師、准看護師）で、「地域トラベルサポーター養成研修」を修了した人をいう。例えば、夫婦で旅行する場合、目的地までは自分たちで行けるが、宿泊先で入浴などの介助ができないときや、観光地で車いすを長時間・長距離押す自信がないときなどに利用してもらおう。この制度により、利用者にとっては、交通費、宿泊費、日当などの経済的負担が少なく済むというメリットがある。その他のメリットとしては、地域トラベルサポーターは地元に詳しいので、よりよい案内ができる。受入地の雇用拡大につながり、介護職従事者の収入増、受入れ地域の介護事業所による新規事業の創出、ということが挙げられる。

2. 事業内容

本事業では当初、座学研修 2 日間、実地研修 2 日間を予定していた。当初計画の詳細は下記の通りである。

（当初計画）地域トラベルサポーター養成講座を 4 日間で実施。

座学研修 2022 年 2 月 19 日（土）20 日（日）大津市市民活動センター

実地研修 2 月 26 日（土）27 日（日）平野コミュニティセンター

しかし、コロナ禍の影響を考慮して、集合研修は断念することにした。

①動画教材の作成

今回のように、実地での研修を行えないという状況はこれからも起こり得ることである。そこで、今後もオンラインで講座を実施する必要性が高まることを想定し、今回は事業内容を変更させていただき、動画教材を作成することにした。これにより、従来は実地で行っていた研修を、視覚的、疑似的に体験してもらえるようになる。介助が必要な方の旅行に行きたいというニーズは、これからも確実に存在する。そうしたニーズに応えることのできる人材を育成し、多くの方に喜んでいただけるようになることを願い、動画教材の作成に取り組んだ。

②オンライン講座の開催

また、介護旅行をはじめとするユニバーサルツーリズムやダイバーシティ、SDGs に対する理解を深めるために滋賀短期大学ビジネスコミュニケーション学科の講義科目「地域ビジネス論」で、伴流高志氏による講演を行った。

3、事業成果

①動画教材の作成

2022年3月16日（水）地域トラベルサポーター養成講座・オンライン実地研修用動画撮影会を実施した。伴流高志氏の指導・監修の元、実際の車いす利用者の方とその介護者の方に撮影の協力をいただいた。一日の流れは下記の通りである。

9：00

JR新横浜駅改札に集合 利用者への挨拶、車椅子のチェックポイントについて障がい者割引で切符を購入。

9：47 - 10：06

JR新横浜－東京

新幹線のぞみ210号（N700S）11号車

駅員による乗降サポート、車椅子スペースが6席ある新型車の撮影

JR東京駅丸の内南口、車いす待合所の撮影

10：30 - 10：50

JR東京→JR浜松町

山手線、車椅子スペースと乗降方法の撮影

11：00 - 11：30

JR浜松町→羽田空港

東京モノレール、車椅子スペースと乗降方法の撮影

11：30 - 12：30

羽田空港第2ビル内レストランで昼食

12：40 - 13：30

羽田空港→JR新宿駅

リムジンバス、乗降方法

13：45 - 14：00

新宿→新宿中央公園

JPN TAXI、車いすのままでの乗降、運転手のサポート

14：00 - 16：45

新宿中央公園、車椅子介助研修（段上り・段下がり、坂道上り・坂道下がり、悪路走行（砂利、芝生）、階段上り・階段下がり）

16：50

新宿都庁→新宿、都バス（フルフラット）乗降

17：00

新宿駅で解散

動画教材のポイント

座学では体感することのできない、旅行の一日の流れを視覚的に理解していただく。

- ①お客様と対面したときの挨拶、車椅子の確認。
- ②障がい者割引の利用の仕方
- ③駅員によるサポート、障がい者のための施設の存在を知る。
- ④交通機関のバリアフリーの現状を知る。新型車両などの紹介。
- ⑤鉄道－モノレール－バス－タクシーといった乗り継ぎの様子。
- ⑥車いす操作について

今回ご協力いただいた車いす利用者の方は、週に2回人工透析をしている方で、最近では外出する機会も少なく、今回の撮影をお出かけの機会と考えてとても喜んでいただいた。

途中、利用したバスには、リフトなど車いす用の設備がなく、介助者が利用者を抱き上げて席までお連れするという場面があった。

また、ジャパントクシーのドライバーは、車椅子に乗ったまま乗り込むということを初めて体験したとのことで、当初、乗車準備にとまどい、マニュアルを見ながら対応して

いたが、この経験をしたことをとても喜んでおり、旅行後にお客様と手紙のやり取りをしたとのことである。利用者もドライバーの一生懸命な姿に心を打たれたようだ。今回の撮影を通じて、こうした交流ができたことも一つの収穫であると考えている。

②オンライン講座の実施

令和3年11月17日(水)13時20分～14時50分、滋賀短期大学ビジネスコミュニケーション学科の講義「地域ビジネス論」で『ユニバーサルツーリズム』『ダイバーシティ』『SDGs』への理解を、さらに深めるための講座」というテーマでばん流高志氏に講演してもらった。コロナ禍を考慮してZOOMを使用したオンライン講義で行った。1回生約60名が聴講し、多くの感想が寄せられた。下記に、学生の感想の一部を紹介する。

1. 授業では特に京王プラザホテルのお話が印象に残っています。これまで、障害者の方でも使えるように、別で障害者の方専用の部屋を何室かつくったらいと思っています。しかし、部屋の空きをつくらないために手すりを着脱式にするなど工夫し、障害者以外の方にも使いやすい部屋にするという発想には「そんな方法があったのか!」と、とても驚きました。ホテルはすべての人が使いやすいように、くつろげるようにすることが理想だと思うので、とてもいい発想だなと思いました。また、予約時に一人ひとりに合った設備をつけるために徹底した聞き取りを行うことは、利用者の方の満足度向上につながると思いました。障害を持つ人や高齢者の方でも使いやすい環境をつくるのが、よりよい社会をつくるために大切なことだと思いました。

このようにすべての人が不便なく安心して利用できる環境をつくることは、病院の環境づくりにおいても、大切なことだと思います。将来医療事務として働くときに、このことを忘れずに患者様と接しようと思いました。

2. 私が一番興味を持ったのはユニバーサルツーリズムについて

です。ユニバーサルツーリズムは、高齢や障害等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できる旅行を目指して活動していることが分かりました。私たちが目指す社会は、平等がよいのか公平がよいのか分からないと感じました。平等が良いときもあれば、公平が良いときもあるのでその場で変わったらいと思いました。ユニバーサルデザインは気づいていないだけで身近にあるのだと分かりました。自動ドアや点字ブロック、スロープなど様々なものがあることを知りました。自動ドアは誰もが使っているものなので必要なものだと思います。バリアフリーデザインよりユニバーサルデザインのほうが身近に感じるのは、全ての人が共用できるものだからなのかと思いました。

3. 今回のユニバーサルツーリズム、ダイバーシティ、ESG,SDGsについて授業を受けて初めて知ることばかりでとても勉強になりました。伴流さんがテーマにしている「誰もが、いつまでも自分らしく豊かな人生を送るために」という言葉を聞き人のために、誰かのために暮らしやすい環境にしていることがとても素敵なことだなと感じました。私が普段過ごしてて思ったことがいくつかあります。私は、アパレルのアルバイトをしています。その中で、車いすのお客様が来店されたとき人が多くとても車いすでは通れない状態でした。そして、試着室も車いすだと入れないのでそのようなときになにもできない自分が悔しかったです。

私にもできることがあればなんでもお客様のために役立ちたいと思いました。試着室でもからだに不自由を感じている人が入れるようにバリアフリーにできたらよりお客様に喜んでいただけるのではないかなと考えました。今の状態をより過ごしやすいために私ができることは役立てるように行動に移していきたいなと思います。今回の高齢者の方、障がい者関連データなどをみて生かしていきたいなと思います。

4、今後の課題など

今後も、地域トラベルサポーターの育成、ユニバーサルツーリズムの推進に取り組んでいきたいと考えている。ただし、今回のようにコロナ禍の影響により、対面・実地の研修などが難しくなることは、今後も考えられることである。

今回の動画教材の作成は、今後、オンライン講座によるユニバーサルツーリズム推進の第一歩になると考えている。今回、作成した動画は、今後行うオンライン講座や、滋賀短期大学ビジネスコミュニケーション学科での授業などで活用したいと考えている。また、今後も新たな動画教材を作り、情報をアップデートしていきたいと考えている。

今回の撮影では、交通各社の障がい者への丁寧な対応を見ることができた。途中、出会ったタクシードライバーとの交流の経験から、ユニバーサルツーリズムは、人と人の心が通じ合うきっかけになりうるものであることを改めて感じることもできた。